

環境活動レポート

(対象期間：2023年4月～2024年3月)

株式会社トベ商事

目次

1	組織の概要	1
〔1〕	事業者名及び代表者名	1
〔2〕	沿革	1
〔3〕	所在地	1
〔4〕	事業活動の内容	1
〔5〕	所属団体	1
〔6〕	環境管理責任者	1
〔7〕	事業の規模	1
〔8〕	施設等の状況	2
■	運搬車両の種類と台数	2
■	積替え保管施設（第2作業所）	3
■	処理施設	3
〔9〕	許可番号	4
2	環境方針	5
3	環境に関する指標（過去の実績）	6
4	環境活動計画	6
5	全体評価	7

1 組織の概要

〔1〕 事業者名及び代表者名

株式会社トベ商事

代表取締役 戸部 智史

〔2〕 沿革

設立年月日：昭和 23 年 9 月 7 日（創業：明治 26 年）

資本金：5 百万円

〔3〕 所在地

本社：東京都北区王子 5 丁目 10 番 1 号

足立営業所：東京都足立区入谷 8 丁目 10 番 29 号

〔4〕 事業活動の内容

再資源加工：ガラスびん、缶、ペットボトル、発泡スチロール、廃プラスチック類
ガラスびん洗浄

産業廃棄物収集運搬 / 産業廃棄物処分業（中間処理）：破碎、圧縮、溶融

一般廃棄物収集運搬 / 一般廃棄物処分業（中間処理）

〔5〕 所属団体

公益社団法人全国産業資源循環連合会

一般社団法人東京都産業資源循環協会

東京廃棄物事業協同組合 他

〔6〕 環境管理責任者

責任者：桑子 智行 / 連絡先：03-5902-3202

〔7〕 事業の規模

・資源物受入量：4,700 t

・一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬量：8,800 t

〔8〕 施設等の状況

■ 運搬車両の種類と台数

1. 産業廃棄物収集運搬業の用に供する運搬車に係る低排出ガス車の導入状況

種類	最大積載量	最大積載可能寸法 全長×幅×高さ (m)	台数	(割合%)
全保有台数			60台	(100%)
4t コンテナ車	4,000kg	6.0×2.2×2.5	3台	(5%)
2t 塵芥車	2,000kg	7.0×2.0×2.5	11台	(18%)
3t 塵芥車	3,100kg	6.5×2.2×2.2	7台	(12%)
4.5t 塵芥車	4,500kg	7.1×2.2×2.8	1台	(2%)
2t キャブオーバ	2,000kg	5.0×2.0×2.0	18台	(30%)
3t キャブオーバ	3,000kg	6.0×2.0×2.0	9台	(15%)
軽トラック	350kg	3.5×1.5×2.0	4台	(7%)
2t ダンプ車	2,000kg	5.0×2.0×2.0	1台	(2%)
バン	13,000kg	12.0×2.5×4.0	3台	(5%)
冷凍冷蔵車	2,000kg	6.5×2.0×3.0	3台	(5%)
運搬車の排ガスレベル			台数	(割合%)
全保有台数			60台	(100%)
平成10年規制適合車			3台	(5%)
平成11年規制適合車			1台	(2%)
平成15年規制適合車			8台	(13%)
平成17年基準適合低排出車			11台	(18%)
平成19年規制適合車			2台	(3%)
平成19年基準適合/排出ガス50%低減車☆☆☆			2台	(3%)
平成22年規制適合車			5台	(8%)
平成22年規制適合/排出ガス10%低減車☆			15台	(25%)
平成28年規制適合車			13台	(22%)

2. 産業廃棄物収集運搬業の用に供する運搬車に係る低燃費車の導入状況

運搬車の燃費低減レベル	台数	(割合%)
全保有台数	60台	(100%)
平成27年度燃費基準達成車	21台	(35%)
平成27年度燃費基準5%向上車	7台	(12%)
平成27年度燃費基準10%向上車	9台	(15%)

3. 産業廃棄物収集運搬業（積替え保管を含む）又は処分業の用に供する低公害型重機の導入状況

低公害型重機の導入状況	台数	(割合%)
全保有台数	36台	(100%)
排ガス対策型	1台	(3%)
その他電気駆動型等	10台	(28%)

■ 積替え保管施設（第2作業所）

施設の面積：2,596.33 m²

最大保管高さ：1.3m

産業廃棄物の種類	保管量	
汚泥、金属くず（廃乾電池（水銀使用製品産業廃棄物を除く）に限る）	ベール缶 30個まで 又はドラム缶 3個まで	0.60 m ³
汚泥、金属くず（水銀電池、空気亜鉛電池（水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	ベール缶 1個	0.02 m ³
廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず（廃蛍光灯（水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	プラスチック容器 6個	1.21 m ³
廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず（廃蛍光灯、HIDランプ、放電ランプ（水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	プラスチック容器 2個	0.43 m ³
	保管量合計	2.26 m ³

■ 処理施設

施設名	施設種類	産業廃棄物の種類	処理能力
足立作業所	選別破碎	ガラス・コンクリート・陶磁器くず（空きビンに限る）	5.24 (t/日)
	選別破碎	ガラス・コンクリート・陶磁器くず（空きビンに限る）	10.4 (t/日) × 3台
	選別圧縮	金属くず（空き缶に限る）	14.0 (t/日)
			27.7 (t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	16.1 (t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	16.5 (t/日)
第2作業所	圧縮・梱包	廃プラスチック類	4.91 (t/日)
		紙くず	10.3 (t/日)
		金属くず	16.0 (t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	20.8 (t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	16.53 (t/日)
	破碎	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	5.32 (t/日)

第3作業所	破碎	廃プラスチック類（廃ペットボトルに限る）	14.0 (t/日)
			14.0 (t/日)
第4作業所	破碎1	廃プラスチック類、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず（廃蛍光灯（水銀使用製品産業廃棄物）に限る）	16,000 本/日
			破碎2
	紙くず	2.57 (t/日)	
	木くず	4.71 (t/日)	
	繊維くず	1.02 (t/日)	
	ゴムくず	4.45 (t/日)	
	金属くず	9.68 (t/日)	
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	8.56 (t/日)	
	溶融1	廃プラスチック類（廃発泡スチロールに限る）	0.32 (t/日)
溶融2	廃プラスチック類（廃発泡スチロールに限る）	0.66 (t/日)	
第8作業所	破碎	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	2.4 (t/日) × 2 台
	圧縮	金属くず	14.2 (t/日)
	圧縮・梱包	廃プラスチック類	20.8 (t/日)

〔9〕 許可番号

区分	許可自治体	許可番号	有効年月日
産業廃棄物収集運搬業	茨城県	00801026955	令和 7年 4月 27日
	栃木県	00900026955	令和 6年 11月 4日
	群馬県	01000026955	令和 8年 11月 21日
	埼玉県	01101026955	令和 8年 6月 30日
	千葉県	第01200026955号	令和 9年 8月 18日
	東京都	第13-10-026955号	令和 8年 9月 29日
	神奈川県	01403026955	令和 8年 3月 28日
産業廃棄物処分業	東京都	第13-20-026955号	令和 8年 9月 29日
一般廃棄物収集運搬業	東京23区	第1136号	令和 7年 7月 31日
	川口市	第74号	令和 8年 3月 31日
	さいたま市	第354号	令和 7年 9月 30日
	草加市	第34号	令和 7年 5月 31日
一般廃棄物処分業（中間処分）	足立区	第1409号	令和 7年 10月 31日

2 環境方針

当社は、リサイクル事業を通じて、循環型社会の構築に貢献します。

1. 品質改善

リサイクルの製品及びサービスの品質を改善し、お客様に安定供給できるよう努めます。

2. 環境改善

水処理などの汚染の予防及び資源の有効活用などとともに、お客様の製品や活動の環境負荷軽減に努め、環境保護を推進します。

3. 法令順守

事業活動に関わる全ての法令及び当社で定めた要求事項を順守します。

私たちは、環境パフォーマンス向上のために、環境目標を定め、マネジメントシステムを継続的に改善します。

制定：平成 19 年 10 月 7 日

改定：平成 29 年 6 月 21 日

改定：令和 2 年 4 月 1 日

株式会社トベ商事

取締役副社長 戸部智史

3 環境に関する指標（過去の実績）

	環境目標	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
1	電気使用量（千kWh）	1085.2	1098.3	1082.7	1069.6	1168.9
2	ガソリン使用量（kL）	20.0	15.6	12.1	12.5	12.8
3	軽油使用量（kL）	394.3	379.1	319.5	377.2	363.5
4	天然ガス使用量（百m ³ ）	232.1	234.2	140.9	113.5	86.7
5	LPG使用量（kL）	56.3	50.2	37.8	22.7	10.1
6	水使用量（m ³ ）	16627.0	24681.0	22411.0	22846.0	23614.0
7	再資源化物取扱量（t）	6003.0	4264.1	4154.9	4465.2	4713.9
8	廃棄物処分量（t）	6443.6	4676.0	4326.0	4502.0	4047.0
9	産業廃棄物収集運搬量（t）	5035.0	3623.3	3629.3	3610.0	2923.3
10	一般廃棄物収集運搬量（t）	8744.9	7016.4	6846.9	7013.7	5875.3

4 環境活動計画

（取組み期間：2023年4月～2024年3月）

	環境目標	環境活動の具体的な取組	実施責任者
1	電気使用量の削減	① 不要照明の消灯 ② エアコンの温度設定（冬23℃、夏27℃）	環境管理責任者
2	ガソリン・軽油・LPG ・天然ガス使用量の削減	① 低公害車・低燃費車の導入を継続 ② 定期的な運搬車両の整備 ③ 収集運搬ルート効率化 ④ 回収先・回収範囲の見直し	車両管理責任者
3	水使用量の削減	① 水道蛇口の開放抑制 ② 洗車時の水使用量の削減 ③ 循環水の使用 ④ 低消費の洗浄設備の検討	環境管理責任者
4	再資源化物取扱量の増大	① 回収した資源化物の分別の徹底	営業部門責任者
5	事業系一般廃棄物排出量の削減	① 事前確認によるコピーミス防止 ② 裏紙利用の励行（メモ帳、両面コピー等） ③ 再資源化物の分別の徹底	社長室責任者
6	産業廃棄物排出量の削減	① 再使用の推進 ② 廃棄物の分別の徹底	環境管理責任者

5 全体評価

① 環境に関する指標について

コロナ禍で減少していた再資源化物取扱量はここ数年復調傾向が見られる。

各種廃棄物処理量・収集運搬量については、1～2割減少している。排出事業者側の排気量削減の取組み、各種廃棄物の軽量化、弊社業務内容の見直しなど複数の要因が影響していると考えている。

処理部門で使用される電気については1割ほどの増加となった。自治体受託事業などの増加が影響している。

水使用量については新洗びん工場事業開始後の水準で推移している。洗びんの引き合いは堅調であるため、今後も同程度で推移することが想定される。

収集運搬部門において、ガソリン・軽油の消費量は変化がないが、LPGの使用量は大きく減少している。車両の入替えなどの影響と考えられる。例年通り、無駄な回収ルートとなっていないかなどの一定の見直しを常に心がけていく。

② 環境関連法規等の遵守状況

法規違反・訴訟等は発生していない。

③ 問題点の是正及び予防処置の状況

適切な対応をとるためデータは常に取り続け、適宜目標値の見直しが行えるようにしていく。

④ 外部からの苦情・要望とそれへの対応状況

苦情は発生していない。

要望について適切に対応している。

廃棄物処理業は近隣のご理解を頂くことも重要であるので、行政対応を含め適宜きめ細かい対応を心がけていく。

⑤ 環境経営システムの適切性、妥当性及び有効性

環境経営システムは機能していると判断でき、今後も継続する。

以上